

井蛙漫録

一

135
486
/



門 486
號 486
卷 1-4




己巳百五の下谷の書者と浮菴 陸羽 鞋叔
筆名はるるし津上信老の梅川の自筆也。其
永ら明治九年のころの人の用ひしもの
なほ梅川の信老なるものも信老の筆に
嘉永末のころの筆と信老の筆とを
文晁文中に記すに信老の筆とす。其
抄中各自の筆の文晁書とす。梅川の筆
のなほ抄中一筆の用ひしものも信老
の筆の筆名を記すに信老の筆とす。其

陸羽



梅の香をよみとせしむる
 装束の文をよみとせしむる

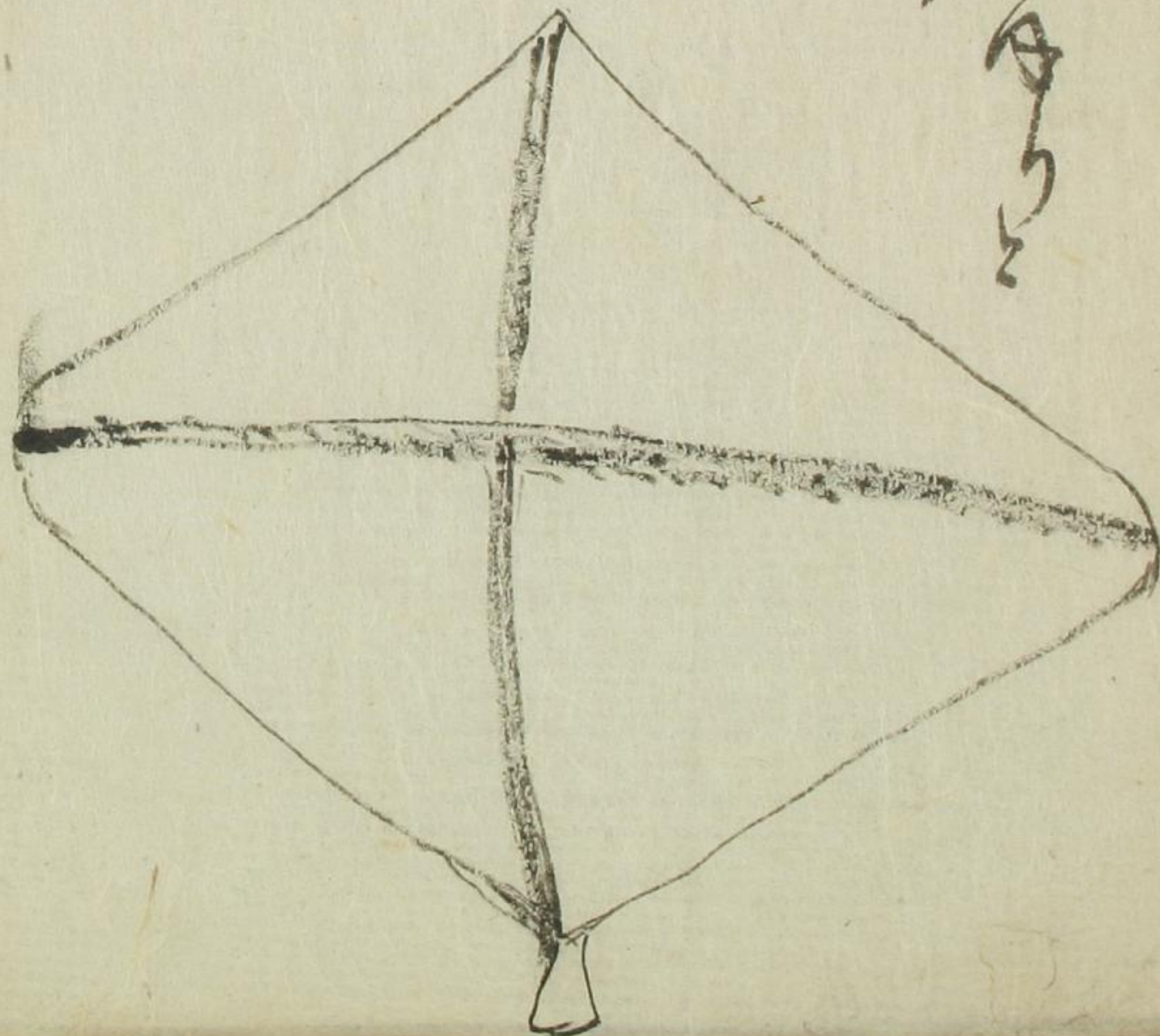
梅
 山
 人


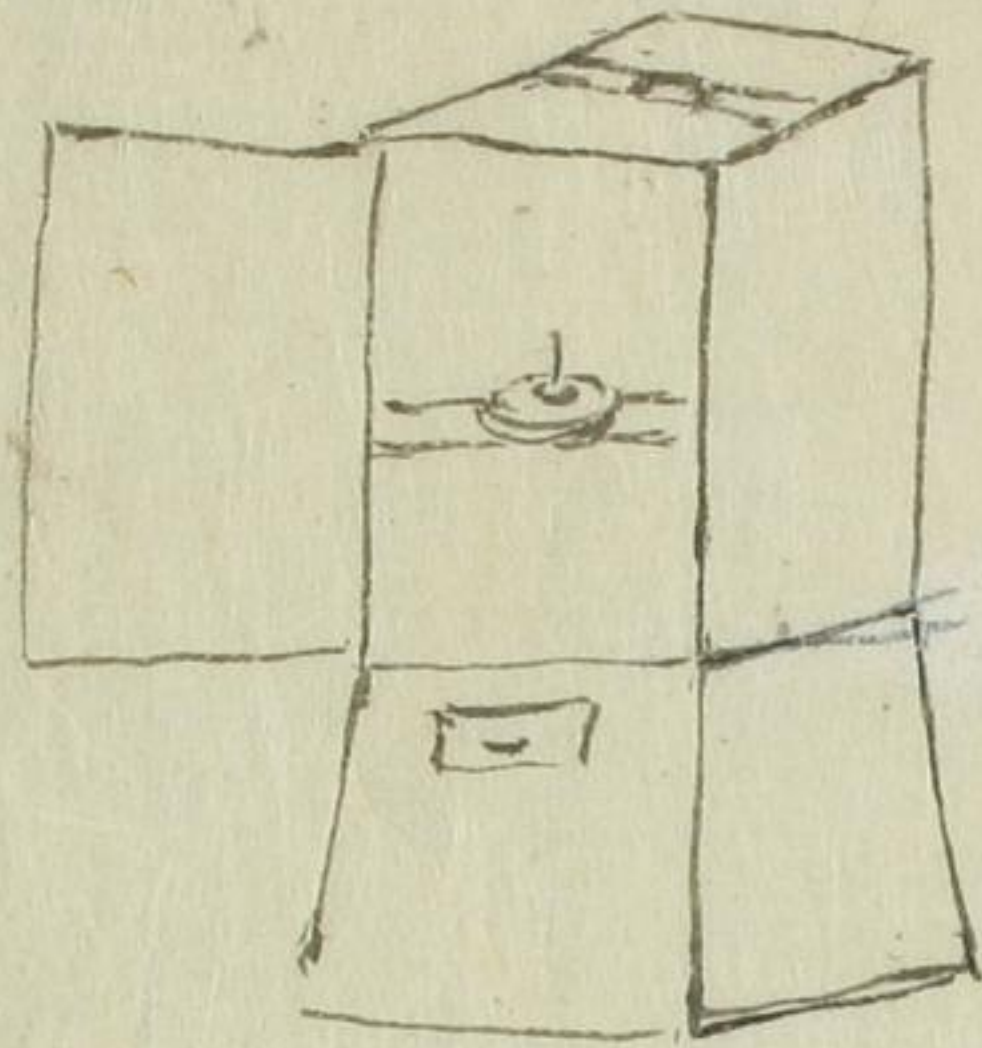
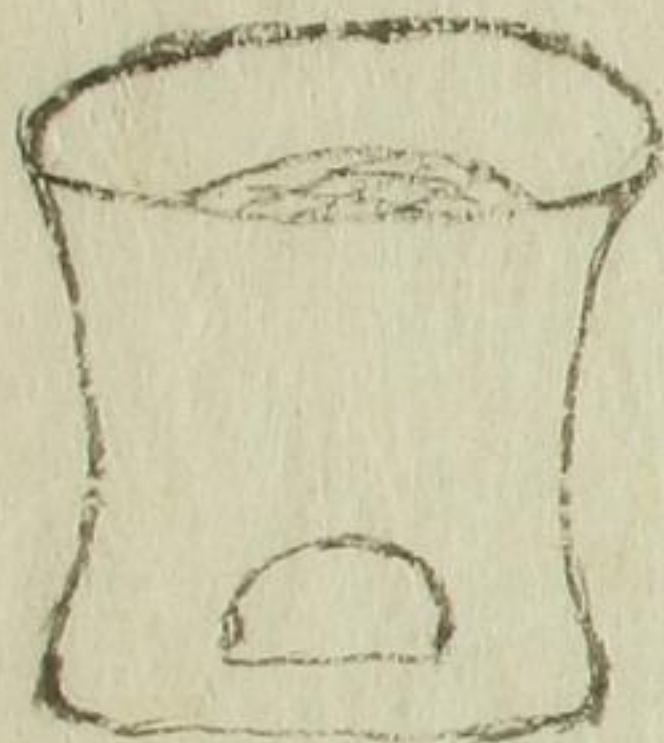






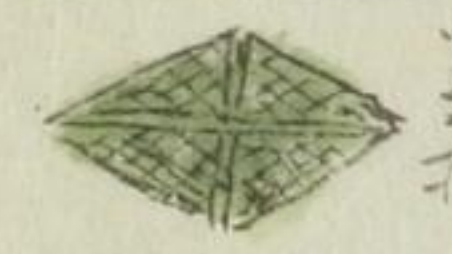
Shogun
Armed



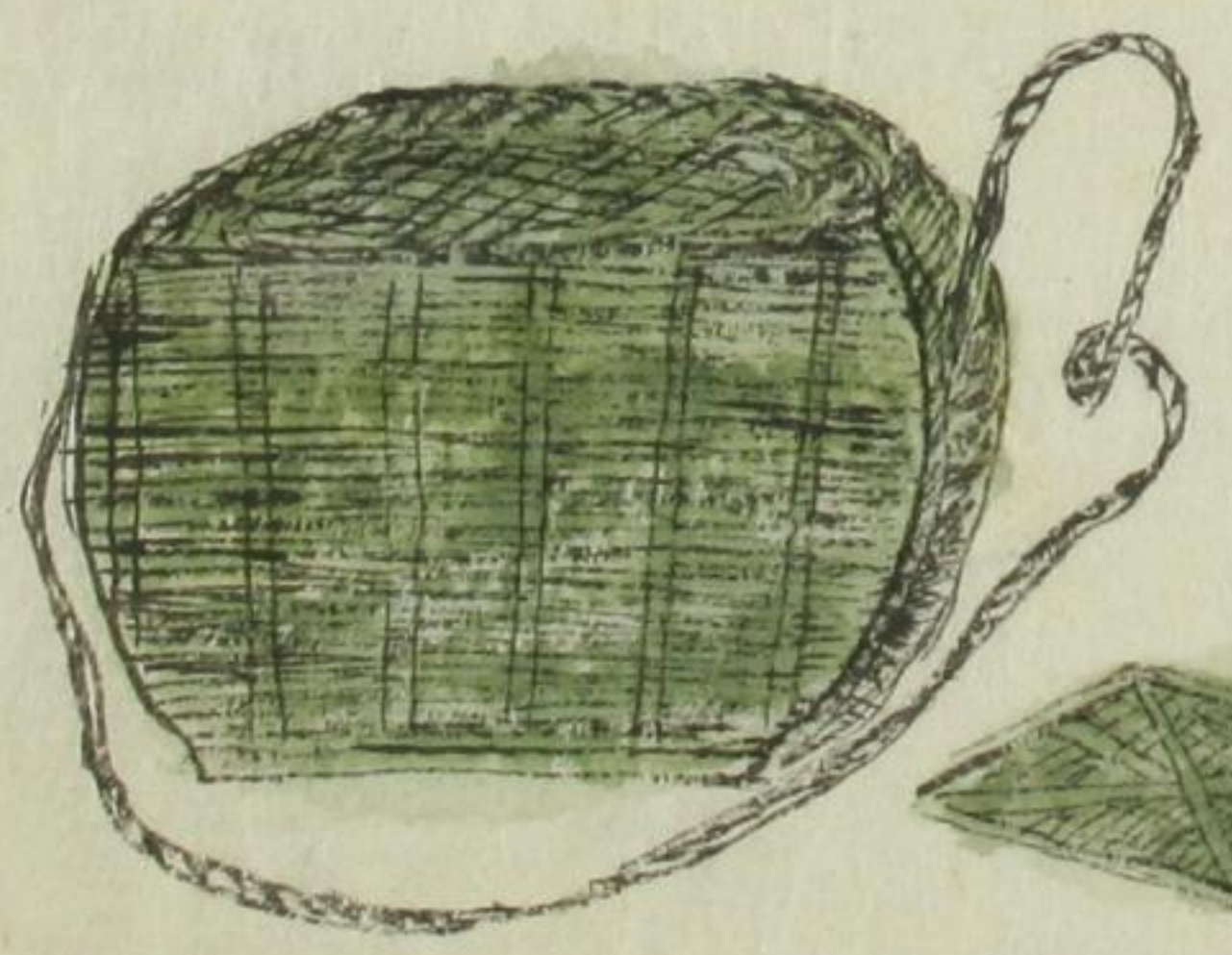




三ノ

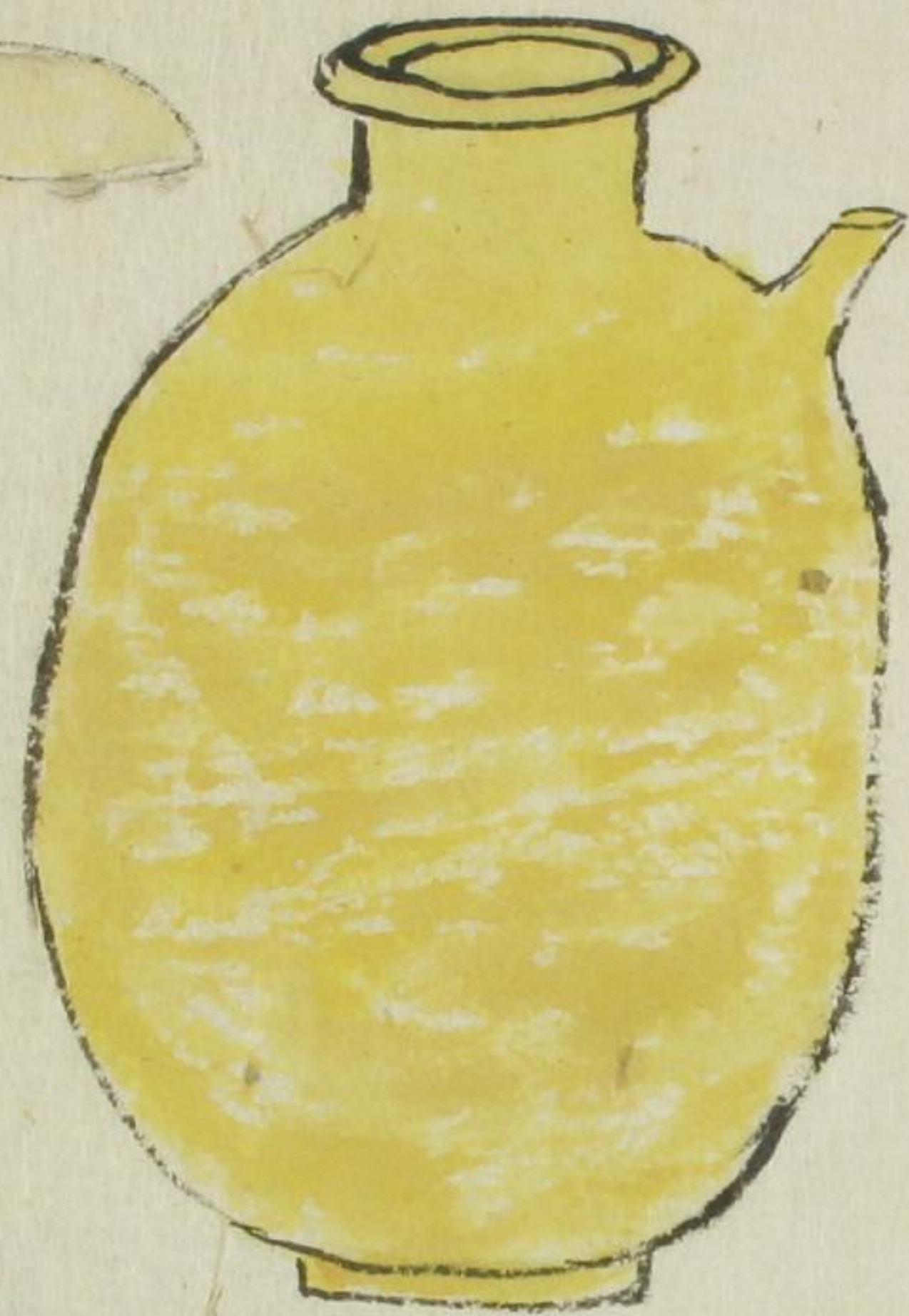


二ノ



下ノ



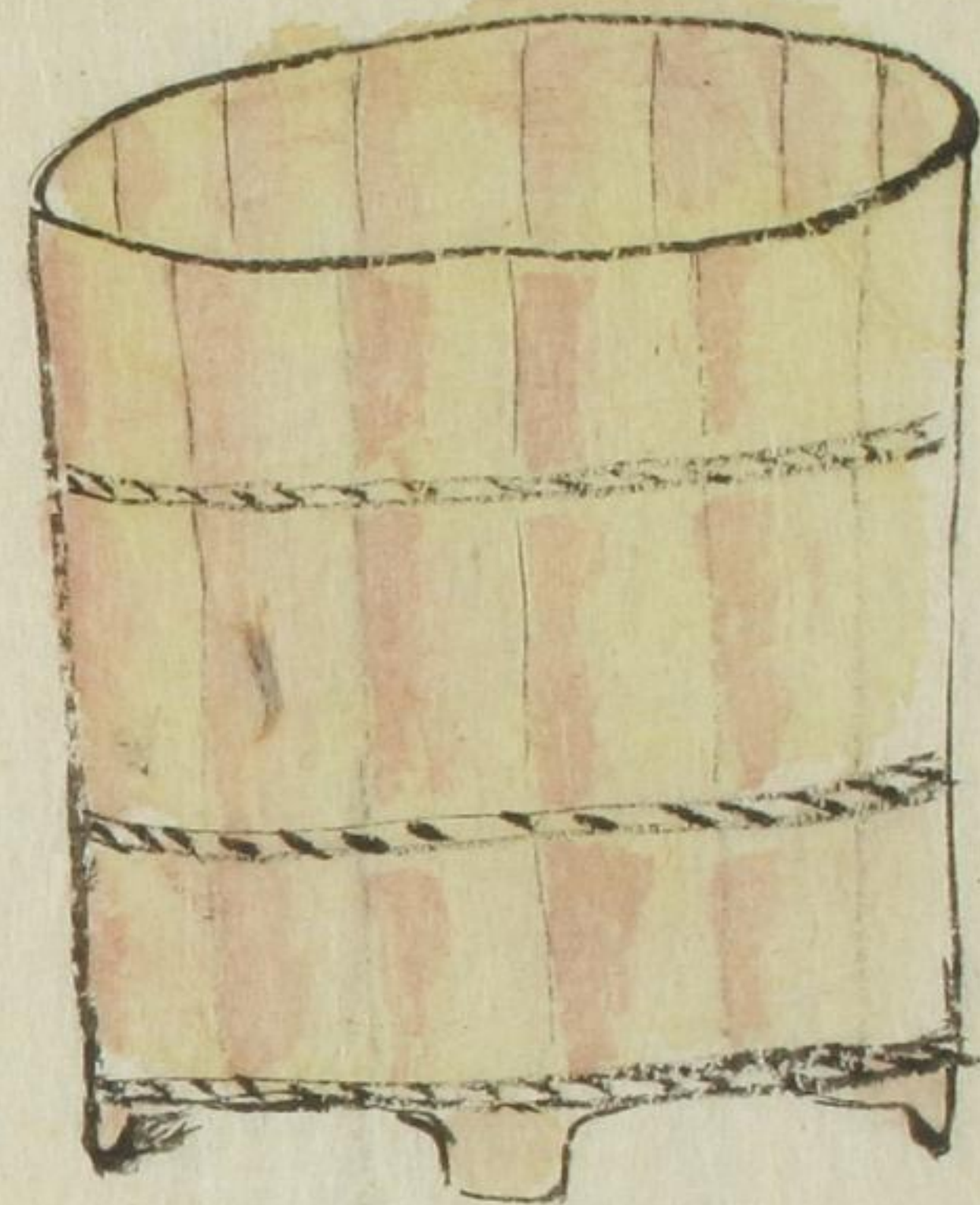


ウ
ス
ケ

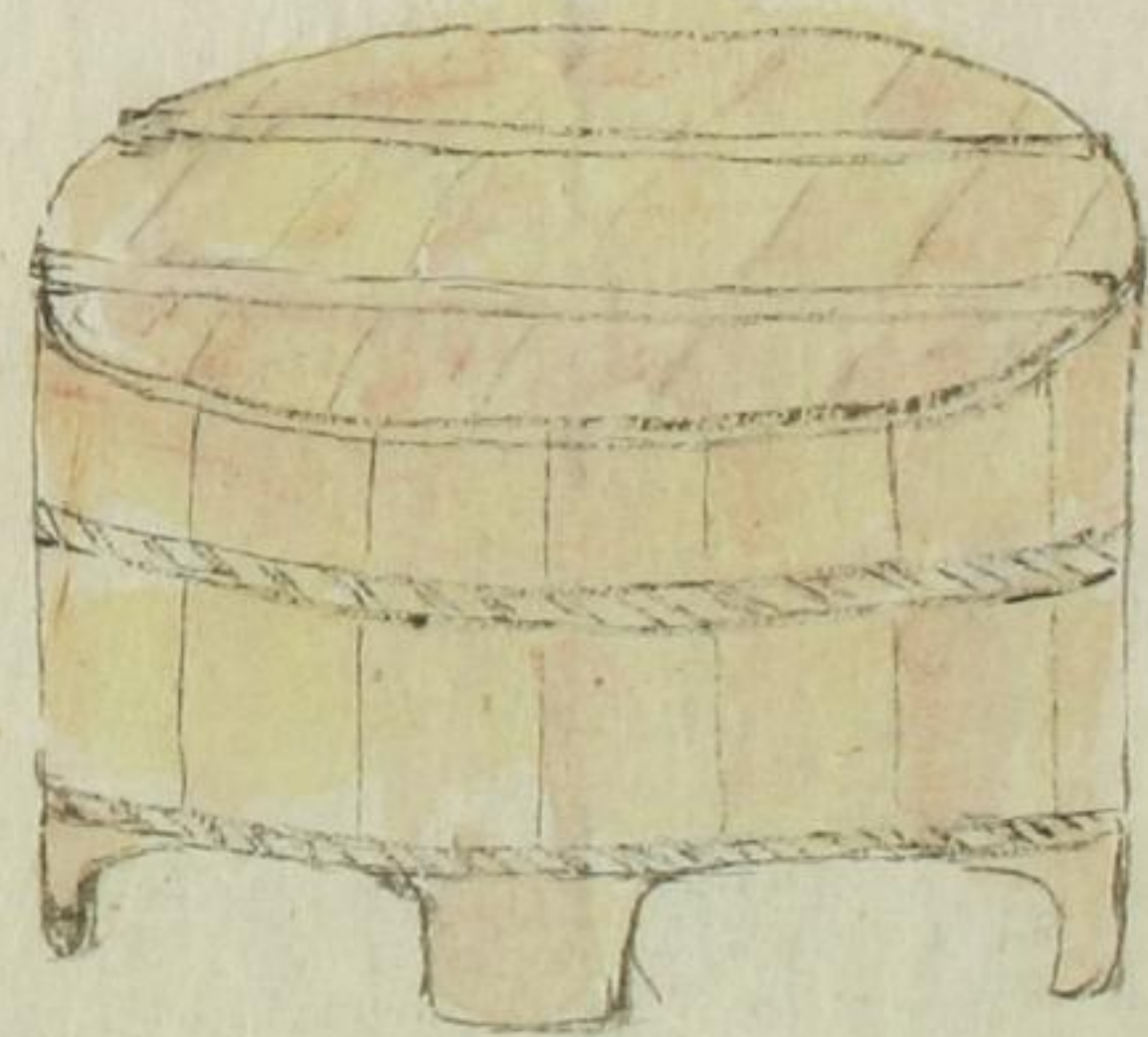


ウ
ス
ケ

木
桶



木
桶



中体、子竹うしろもち



けわん
大中
アホ



ウスケ

寛政三年辰戌月
け髪のくちり
髪



祇園會車踊外題

新古今時以今
評物足、上入

頼光山入

角木所

山伏六人

石屋山伏所牌

物

菊屋山伏所牌

物

吉田山伏所牌

物

中込山伏所牌

物

石田山伏所牌

物

仲山山伏所牌

物

角所祇園會車

車

物

所

さらさら

歌の上

古歌場鐘掛

六所組

少少大々

人形遣ひ

小糸村

廣物

淨瑠璃

三浦市

之味縁

新津市

新津市 祇堂と高島

三嶋おせん

六町組

片り差たみしは秋葉とさる縁の井

利生居
あまふ

用の所々糖やわと五六三糖の白波

人形ばら

小糸村

文吉

淨瑠璃

要三郎

竹平泉太夫

新島所 祇堂と高島

新島所 法二

所

柳と所より比留と連記

そと名い未世も棟木留来

新島所
民之ら
力花

祇園女御九重錦

羊所

并 初田四郎之忠公 並美昌之七名抄也

踊子

綿衣中花牌

室衣牌

酒席中竹笠牌

自衣牌

新中衣牌

仲衣牌

小唄方

虎吉

後吉

金吉

藤吉

牧吉

前吉

多吉

菅吉

庄吉

新吉

振附

三味線

中村吉

新吉

平所被定を為し儀と信云平と云

降り新波の浦に
後五里と云云金小苗の波婦

客籠出入湊

舟町

舟二海流は上り下り男北行を云云
後五里と云云金小苗の波婦

浦子

浦子 浦子 浦子 浦子

小畑名 文兼

振附

二葉丸市

和市

△和子 健子
幸七 子代 吉△

舟町 振定を為し儀と信云平と云

舟

舟の影の山吹も七を以て子候れ道

東山推物詰

舟町

舟の影の山吹も七を以て子候れ道

浦子

浦子 浦子 浦子 浦子
小畑名 文兼
幸七 子代 吉△

振舟 芝海房之所之味線物は七

陸河町神宮と高妻 平河下り高妻 高妻より代吉

神針

姫路町

時、吉妻より松島の日々、家蟹丸を釋きて、
赤丸を結し、松島より一宮丸の徳能、息界
の海よりいりてき

姫小松子日の遊

此の遊の遊はあきけも神宮丸の船かたは物
はしと、高妻より赤丸の徳能よりいりてき

陣子

おや、信を陣利者
まじ、高妻より娘より
小畑方

此の陣
丑、
新、
虎、
乙、
差、
弟、
後、
遊、

振舟 芳正侍への
之味線 踏行信 三

陸河町神宮と高妻

高松平 侍、
高松平 七、
高松平 高松平、
高松平 高松平

片玉の削り流しー水練し

物の玉れ和光の流

増福競作物鉄

塩町

并

整新よきい若ら力もさるくと

又おもいの貞女の流

踊子

とろやに名馬将言序
すのやに名馬将福勝小咽方豊吉
和やとろや将福勝

振附中村龜雲

竹内命
伴吉
乙巳命
藤之助

之味線舞はは連下

松竹祇堂高あ

久りあ
たをり
久を所
久を花

所り

あひきよよにうれわらみまつらのあよとよせ

うけつさひさの葉の木の傳歌恋書

年の若丸舞馬下

おまをすーの所

櫻所

年
この頃の原ささあんのちりー糸屋まをりの
時よは馬成の連の部けは空秘よふのくはたさ

海子

卷中利三所將以答
并中亦將忘哉
早中然能治之也

小咽方

之四所
新時
常以之

振所市村市中部

之味線路所

瑞所視定之商者

重之書
久之書

森云

健云

八重書
新之書
年之書
度之書

新向樂

樂人

豐所

卯右部

梅之部

其之部

年之書

之四部

芳之部

秋之部

年之部

助之部

長之部

大左敝

法音
力助

大左敝

芳音
友花
法高

管

音高
芳音
市音
丑音
音高

管

音高
音高
音高
音高
音高

音高
音高
音高
音高
音高

子柏子

龜音
音高
音高
音高
音高
音高
音高
音高
音高
音高

音高
音高
音高
音高
音高

小頃

竟乃帝
善有之
利之
仙之
劫之
冥之
夜之
吉之
文之

以捕

昔後所

常乃帝
久之
吉
良年
兵年
重年

多量の御毛今と紙巾にて
 上ハ金れ下ハらんき所

山崎中平とよく似る所く地が
 ともこの方切庭にお見

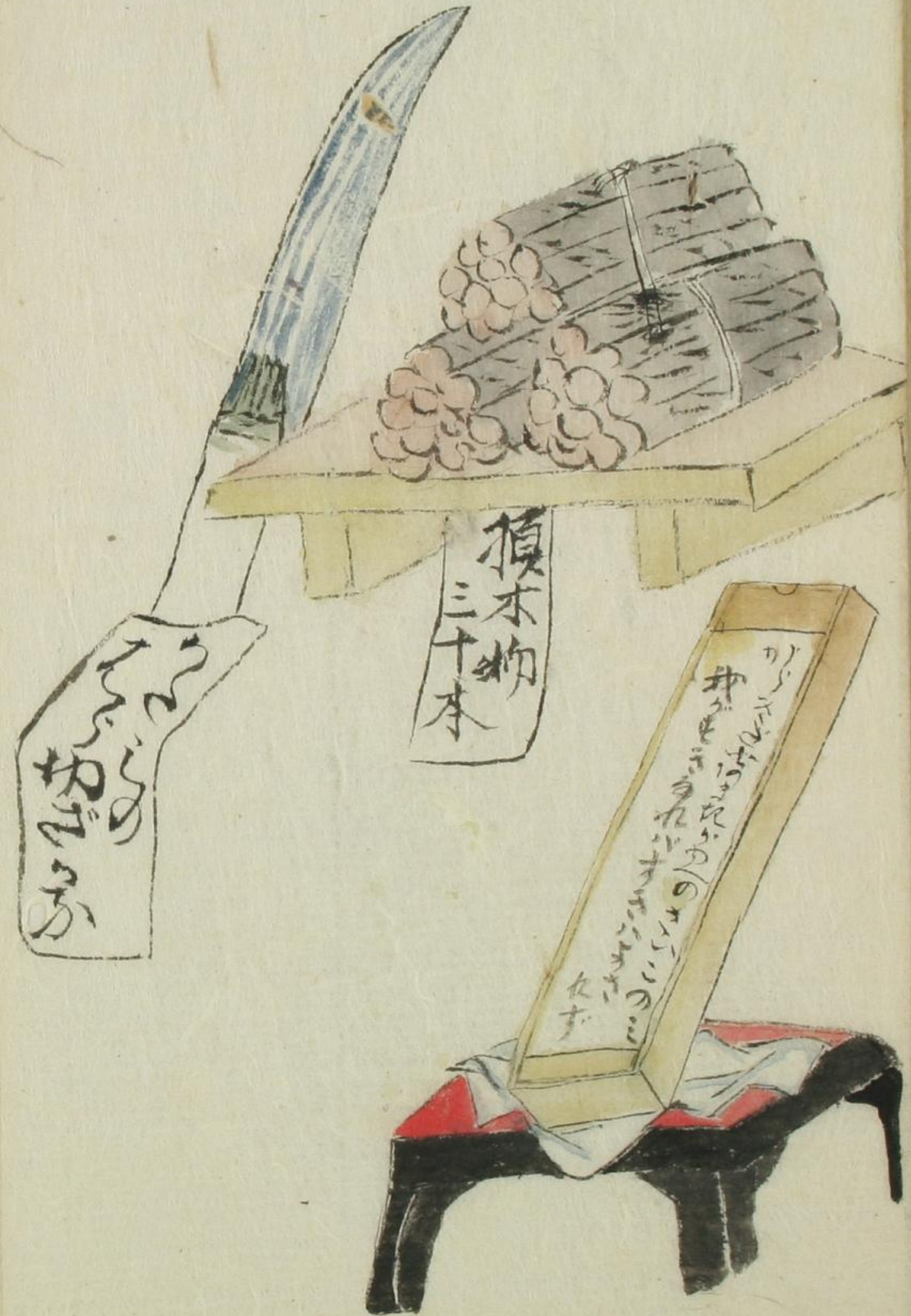
東京府京りあけぬ大豆屋あり
 今川きこし初ハまことまわり
 是世何
 ちがりし後ハ丹後とあるなり

せん
 洗作 麦
 とんご
 雨垂 寶
 せんご
 せんご

せんご
 せんご

せんごこれらにはまがやらの余ふりておちまの
 せんごおちまのせんごのせんごせんごせんご
 りおちまのせんごせんごせんごせんごせんご
 せんごのせんごせんごせんごせんごせんご
 せんごせんごせんごせんごせんごせんご





遠又左

中井 重春

ゆきよし遠よものあつちりぬぬるよ

此字解近

こゝにぬるものかこゝをこゝにぬるもの

牡丹

かーはさむらの木陰にゆきよーらりるよと神を
川成りーゆきよみそきる之氣のりの輝のあらはす

春雨意

ゆきよはゆきよとあつちりぬぬるよ

衣はれそあめあめ

弟仙 糸糸らりけりるよと花むけあ

すくぬ川里あつちりぬぬるよ

タカリノ

月音花り

あつちりぬぬるよゆきよのあつちりぬぬるよ

ゆきよを人まうらるよと我らゆきよを

我のことあつちりぬぬるよゆきよを人まうらるよ



み林書

日記

あはれなること一日よりあはれなる

ことなるあはれなること一日よりあはれなる

大江神幸車浦外願

御願書
三十一

木下茲獲同合致

御願書
三十二

所又歸より打ちかざりしりりしん座り

御願書
三十三

並、居りしん座りしりりしん座り

御願書
三十四

所よりしん座りしりりしん座り

御願書
三十五

比良山御書目録立 新博多町

御願書
三十六

子

比良山御書目録立 新博多町

人形書

御願書
三十七

御願書
三十八

御願書
三十九

御願書
四十

件幸車浦外願所

臨獲回合裁

新島所

ゆゑに打ちとけりしりしゆゑに
ゆゑに打ちとけりしりしゆゑに
ゆゑに打ちとけりしりしゆゑに
ゆゑに打ちとけりしりしゆゑに

ゆゑに打ちとけりしりしゆゑに

ゆゑに打ちとけりしりしゆゑに

ゆゑに打ちとけりしりしゆゑに

ゆゑに打ちとけりしりしゆゑに
ゆゑに打ちとけりしりしゆゑに
ゆゑに打ちとけりしりしゆゑに
ゆゑに打ちとけりしりしゆゑに

人形

少島村 唐野

浄海記

舟中記

三時

菊子

大工

國書

虎

虎

助市

助市

所へ出と弟と此へは後上へ
新く

箱根権現碑は他封
古魚所

兼て歌の少系勢成りぬと指す
いへり花の香よすん誠の糸

踊子
酒屋分所
福仲
えをふす牌竹次

尾上幸盛
鶴原利三郎

振付
三味線
鶴原利三郎

所り急送江道の程取も終りて
大道路

時代織室町御
徳町

糸と古孝の子より子に糸
糸名取

踊子
市川市十郎

市川市十郎
栄左衛門

市川市十郎

三味線
鶴原利三郎

所りる日牛古今の名物

仁急上感上る事あり降糸

祇園寺礼信作記 古博多町

妹り秋心まよふまをん容の歌
かまひ芥子の花柳

玉白や夜光燈

福右衛門

中法や若菜

市多郎

本や釣る舟

重信作

津板屋

竹中家石文

喃子

所りひいーかろよとるねみ字のあさる高橋

それとこころりーお笑の和らるり

鏡山荏田錦繪

京州

舞の初ーわくまをこころいまーとるあさる

あさるいられとるいまーとるいまーとるいまー

カ作不才年時 芳乃雲

おまや若所時 仲市

石初不才之解 享信作

云及春市

若所時 鉄三

喃子

振附

之味候

明治
二十八年
十月十八日
中井新三郎
氏寄贈

